# 知識の使い方

伊勢原中学校　佐藤　優真

僕の思う平和とは、人々が安心して生活できる環境下にいることである。

僕は科学部に入っている。どうしてかというと、物の仕組みを知ること、新たに作り出すことが好きだからである。部の仲間と考察し互いにディスカッションする時間はとてもわくわくし楽しい時間だ。何度も試行錯誤し自分が思い描く結果になった時の達成感は気持ちがいい。まだはっきりとは決まっていないが僕は科学や工業の道に進みたいと思っている。そして、人の役に立つような技術者や指導者になりたいと思う。これは僕の本音であり嘘偽りない言葉である。前向きで僕の知識が人の役に立ち人々が平和で安心できる環境を実現できるように努力する一員になりえるような感じがするのではないだろうか。

ではダイナマイトは何を目的として作られたか知っているだろうか。一説には「トンネル工事などで作業をスピーディに進める目的として」とある。しかしながらダイナマイトは戦争で敵を攻撃するためにも使われたそうだ。きっと開発者はよいものを作ろうと思っていただろう。よいものも使い方、使う人によって悪いものになる可能性がある。原子爆弾の開発者も後に反対活動をしていたそうだ。これらが開発され得られた利益は計り知れないだろう。でも開発されていなかったら...。失われた命はなかったのではないだろうか。お互いが言葉で理解を深め相手を知ろうとしたのではないだろうか。戦争という過ちを犯さずにすんだのではないだろうか。

僕は戦争を経験したことはない。しかし僕のルーツを辿ると曽祖母の父である高祖父は満州の戦争で亡くなっている。第二次世界大戦では母の実家である東北には疎開してきた人々がいたそうだ。土地を持っていた曽祖父の父である高祖父は無償で土地を渡し困っていた人を助けたそうだ。

先祖の歴史を辿ると戦争という文字が出てくる。戦争はテレビやネット、教科書の

中のイメージだったが、自分自身の家系を辿るとそう遠くない歴史の中に戦争を体験している先祖がいることに驚いた。生前、曽祖母が少し悲しげに語ってくれたことが僕の知っている歴史の全てだ。今思えばもっとその時の話を聞いておけばよかったと思っている。

今、僕が平和に暮らせているのはその時代を一生懸命に生きた先祖がいるからだ。今の平和な時代を作ってくれた人達にとても感謝している。そして次の世代を担う僕達は、決して同じ過ちを犯してはいけない。僕達も次の世代の人が安心して暮らしていける世界を作らなくてはいけないと思う。そのためには、今の半分大人、半分子供の僕達だからこそこれからの知識が良いものにも悪いものにもなりえる可能性があることを知らなくてはいけない。武力やものに頼るのではなく相手との対話、互いに尊重し合う思いやりの心で解決することの大切さを知らなくてはならない。そして、歴史を知り同じ過ちを二度とくり返してはいけない。

まだ未熟な僕達のこれからの知識は平和のために使うべきである。僕達は次の世代にも歴史を語り継ぎ知識を正しく使えるように導ける大人になる必要があるだろう。だからこそ歴史を知ることは次の世代の平和につながることだと思う。

知識を使いものを作り出すことは決して悪いことではない。しかし、使い方次第では悪いことに使用されてしまうことを忘れてはいけない。将来何かものを作ること、使うときがある時には一度立ち止まり、そのものに対しての良い点悪い点をしっかり考えて行動したいと思う。今学びを深めている僕達の知識は平和のために使われることを願っている。